

野々市フォーラム

活動の期間	調査研究、研修、 要望・陳情の場所	活動の種類	報告書のページ
令和5年6月8日から 令和5年6月9日まで	東京都千代田区	調査研究 要望・陳情	P 2
令和5年8月9日から 令和5年8月10日まで	大阪府高石市 京都府京都市 兵庫県姫路市	調査研究 研修	P 6
令和5年12月21日から 令和5年12月22日まで	東京都千代田区 神奈川県横須賀市	調査研究 要望・陳情	P 8

令和5年6月28日

野々市市議会議長 北村 様

(報告者)

会派名〔又は〕野々市フォーラム
 代表者〔議員名〕中村 義彦



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	令和5年6月8日から 令和5年6月9日まで
視察、研修、要望・ 陳情の場所	衆議院第二議員会館 東京都千代田区永田町2-1-2
参加者氏名	中村義彦、安原透、向田誠市、小堀孝史、朝倉雅三、畠中勝己、田中陽子、三納昭博
目 的 (調査・視察事項)	1. 会派研修：文部省・農水省・国交省、会派より事前依頼してある内容についてレクチャーを受ける。 2. 野々市市に係る国会議員：野々市市における事業に対する予算要望・陳情と意見交換。
調査・視察概要	「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の解説 出席者 文部科学省 文教施設企画防災部専門官 佐々木 匡史 文部科学省 文教施設企画 施設助成課課長補佐 野口公伸 文部科学省 初等中等教育局企画課室長 前田 幸宣 文部科学省 初等中等教育局財務課専門官 北川 雅崇 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課課長補佐 大野 照子 急激に変化する時代において、多様化している児童生徒一人一人が各々の良さや可能性を認識し、周囲のあらゆる他者の価値と存在を尊重しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手になるように育んでいく事が必要。 ・従来の日本型の「知・徳・体」一体で育む学校教育の良さを継続し

て正解主義や同調圧力への偏りから脱却し、個々の子供の得意分野、特性を認識した令和の時代の教育の実現。

- ・教職員の資質の向上。多様な人材の確保。家庭、地域社会との連携、分担。働き方改革。

- ・ICT環境の整備、学校施設の整備。少人数によるきめ細やかな指導体制。

- ・義務教育の在り方ワーキンググループ（第11期）の設置。

【要望書】

- ・いじめ、不登校の防止対策を講じるための、教育センターの機能強化、環境整備、維持管理、指導者の人件費等の支援施策に対する補助金。

- ・きめ細やかな指導体制への、児童生徒支援の為の加配教員配置の充実。

- ・特別支援学級の定数改善（8人制→4人制）

- ・公立小中学校の教育環境整備にかかる補助制度の拡充。

「令和4年 和食文化に関する意識調査報告書」の解説
出席者

農林水産省 食文化室長 長濱 亨

農林水産省 外食・食文化課課長補佐 西野 陽子

- ・ユネスコ無形文化遺産に登録された(平成25年12月4日)和食文化の未来に向けて守り伝えていくため、継続的なPRによる関心の維持や地域における保護、継承が重要。

和食文化：「自然を尊重する」という心に基づいた、日本人の食習慣。

正月、祭礼時などの年中行事にまつわるもので、季節を感じられる。

一汁三菜を基本とする和食は健康的な食生活を支えるもの。

調理が難しく、手間がかかる。価格が高い。(ネガティブなイメージ)

地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方作法などの多くは、家庭で母親と料理を一緒に作ったり、手伝いながら受け継いで来ている。

郷土料理のアーカイブ化

伝統食のデータベース化

和食文化継承リーダー研修の育成

Let's! 和ごはんプロジェクト(官民連携の取り組み)

インバウンドを通じた海外需要の取り組みと創出

郷土の伝統食ならば、「知る・作る・活用する」を身近であり
各々の地域活動でも盛り上げていけるのではないか…。

「ウォーカブルなまちづくりについて」の解説

出席者

国土交通省 街路交通施設課調整官 角田 陽介

国土交通省 公園緑地景観課国際緑地環境対策官 辻野 恒一

国土交通省 まちづくり推進課政策係長 乃口 智栄

国土交通省 まちづくり推進課政策係長 藤原 聖也

国土交通省 水管理国土保全局治水課課長補佐 今居 勝一

国土交通省 水管理国土保全局治水課流域治水推進係長 若杉康

夫

今後のまちづくりの方向性は、

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかからはじまる都市の再生

・ウォーカブルとは、歩き易い/歩きたくなる/居心地が良い

・まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することが出来る空間
の創出を推進し、車中心から、人中心の空間へと転換を図る。

・子供が安全かつ快適に外で遊べる空間の創出。

官民連携のまちなか再生推進事業。

・未来ビジョンの実現のための、自立・自走型システムの構築への
支援。事例として姫路市、熊本市、前橋市、川崎市等

当市においても、車の流れがあちらこちらで混雑し、車中心と
なっており、「人々が居心地の良い、歩きたくなる」とまでは言い切
れない現状があります。都会の先進地とは比べようがないにせよ、先
進地を参考に当市ならではのウォーカブルなまちづくりを実現展開
出来たらと思います。

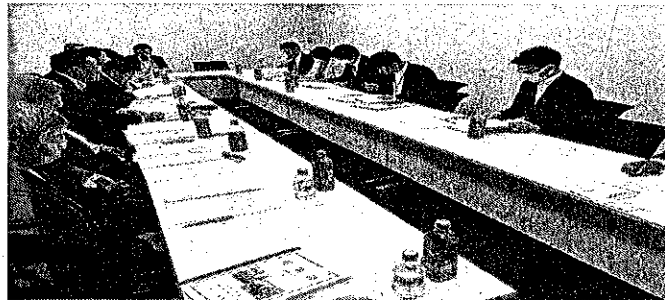
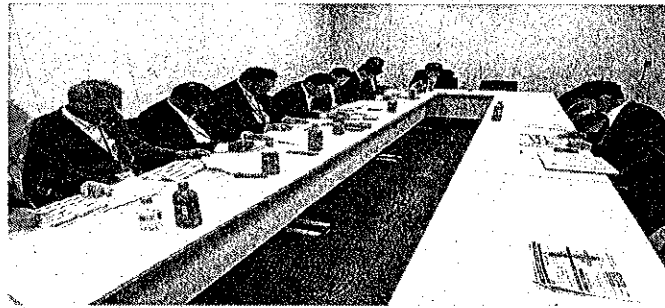
【要望書】

市事業関連

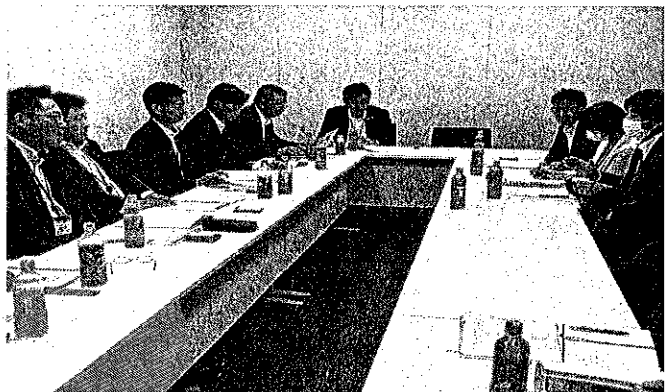
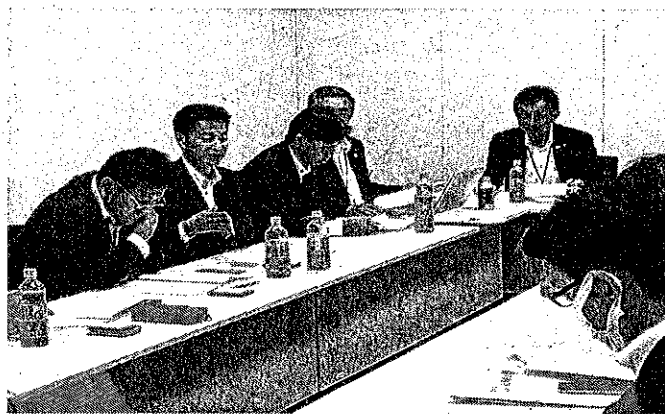
- ・街路事業「高尾郷線」の事業促進（継続）
- ・街路事業「野々市中央公園西線」の事業促進（継続）
- ・野々市中央公園拡張整備事業の促進（新規）

県事業関連

- ・二級河川高橋川改修事業の促進（継続）
- ・二級河川安原川改修事業の促進（継続）



参考写真



令和5年10月20日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕野々市フォーラム
 代表者〔議員名〕 中村 義彦



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	令和5年8月8日から 令和5年8月10日まで
視察、研修、要望 陳情の場所	高石市 大阪府高石市加茂4-1-1 京都経済センター 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地 姫路市 姫路市安田4-1
参加者氏名	中村義彦・安原透・向田誠市・小堀孝史・畠中勝己・田中陽子・ 三納昭博（小堀孝史は、会議参加のため9日より参加）
目 的 (調査・視察事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・高石市：駅から徒歩5分のところにある遊休施設化している施設を多世代が交流できる施設にリノベーションを含め「ウォーカブルなまちづくり」の取組を視察。 ・京都経済センター：適正な議員定数・議員報酬の算定手法の研修 ・姫路市：ウォーカブルな環境づくりに資する様々な取組・街づくり事業の視察。
調査・視察概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 高石市では、南海本線高架化による、駅周辺の再開発「駅前広場を中心とした、多世代交流の象徴の場づくり」を、令和7年度末までに完成を目指した整備計画の説明を受けた。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅東口整備プランでは、芝生が広がるみどり豊かな居心地の良い空間、高架下空間と広場の有効活用 (2) 駅西口整備プランでは、高架下との一体性を持たせるための歩いて楽しい人が中心になった歩行空間を実現 2 京都経済センターにおいては、行政研究所の講師より「適正な議員定数の決定手法を考える・適正な議員報酬の算定手法を考える」を受講し、他の自治体の現状と本市の今後の参考とする。 3 姫路市では、「姫路市ウォーカブル推進計画」の下、具体的な取組として、実証実験を町ぐるみで実施しその成果を確認し、行政と商工会が公共空間の有効活用を図っている実情を確認でき

た。

特に、姫路駅北駅前広場整備では、市議会で特別委員会を作り数年がかりで整備を実施している。

具体的な取組としては、駅から姫路城にかけてのメイン道路(歩道)に飲食店のテラスやマルシェを設けて、人が立ち寄れる・くつろげる場所を提供する事により、通過する歩道から楽しめる歩道になり地域経済の活性化にもつながっている。

規模や環境の違いはあるが、参考とすることも多くあり、今後の野々市駅前の再開発を含め参考にしたい。

令和6年2月28日

野々市市議会議長 北村 様

(報告者)

会派名〔又は〕 野々市フォーラム
 代表者〔議員名〕 中村 義彦



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	令和5年12月21日から 令和5年12月22日まで
視察、研修、 要望・ 陳情の場所	衆議院第二議員会館 東京都千代田区永田町2-1-2 参議院議員会館 東京都千代田区永田町2-1-2 令和佐原球場・リーフスタジアム 神奈川県横須賀市佐原2丁目2-10
参加者氏名	中村義彦、安原透、小堀孝史、畠中勝己、田中陽子、三納昭博
目 的 (調査・視察事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政レクチャー(観光庁旅行振興参事官室):アウトバウンド政策についての取組概要、国内パスポート取得状況の推移・世界主要国別・都道府県別・性別・世代別から読み取れる事、パスポート取得の推進施策・取組事例についてレクチャーを受ける。 ・野々市市に關係する国会議員への要望陳情:野々市市における事業に対する予算要望・陳情と意見交換 ・令和佐原球場・リーフスタジアム:球場整備事業に至った経緯とニーズ及び野球以外の利用状況について視察
調査・視察概要	1. アウトバウンド政策についての取組概要、国内パスポート取得状況の推移、パスポート取得の推進施策・取組事例についてレクチャーを受ける。 出席者 国際観光部参事官(国際関係)付 課長補佐 田端 義宏 国際観光部参事官(国際関係)付 新事業推進官 寺田 康裕 外務省 領事局 旅券課 課長補佐 藤川 雅大 (1)アウトバウンドの推進は、日本人の国際感覚の向上や国際

相互事業理解の増進に資するだけでなく、インバウンド・アウトバウンドを両輪として双方向の交流拡大を図り、出国日本人数の令和元年水準（約2,000万人）超えや、イン・アウト双方の観点から重点的な取組を実施すべき国・地域（重点的・地域）を設定し、一層強力な取組を推進する本格的な回復に向けた政策パッケージの説明を受けた。

(2) 出国日本人数の推移では、コロナ感染拡大前には、2,000万人を超え過去最大を記録したが、現在は、大幅に減少した状況から順調に増加している傾向にある。

国内の旅券発行状態を見ると、10代及び20代が4割以上を占めていて、女性の発行数が多い。

2. 【要望書】

市事業関連

- ・街路事業「高尾郷線」の事業促進（継続）
- ・街路事業「野々市中央公園西線」の事業促進（継続）
- ・野々市中央公園拡張整備事業の促進（新規）

県事業関連

- ・二級河川高橋川改修事業の促進（継続）
- ・二級河川安原川改修事業の促進（継続）

【要望書】

(1) いじめ、不登校の防止対策を講じるための教育センターの機能強化、環境整備、維持管理、指導者の人件費等の支援施策に対する補助金。

きめ細やかな指導体制への児童生徒支援の為の加配教員配置の充実。

(2) 特別支援学級の定数改善（8人制→4人制）

特別支援学級の1学級に、3学年以上またがる場合の教員の加配

今後も顕著な人口増加が見込まれるため小中学校に対して、環境整備に係る補助制度の拡充として第2体育館の整備ができるよう、自治体負担を軽減し一定の学級数を超える場合の必要面積要件等の諸条件の緩和を行うなど補助制度の拡充を要望。

(3) 学校体育館の空調設備及び設備設置後のランニングコストも対象とする補助制度の拡充を要望。

【要望書】

市事業関連

(4)放課後児童クラブに係る運営費補助の充実

子供を産み育てやすい地域をつくるためには、保育所や認定こども園の卒園後、いわゆる「小1の壁」を作ることなく子育てと仕事を両立できる環境の整備が必要である。

資金力の乏しい保護者会などが運営する放課後児童クラブでは、固定費である賃借料も重く、維持管理が適正になされる施設で事業が実施されるよう補助の対象を放課後児童クラブの実情に応じて柔軟に補助金を活用できるよう基準の緩和と制度の充実を図るよう要望

(5)「発達相談センター」の法定化と運営費補助の創設

発達相談センターを設置して身近な場所で相談できる体制を整えておりますが、今後も継続して相談体制を維持・強化していくためにも、発達相談センターの法定化と、それに伴う補助制度の創設を要望

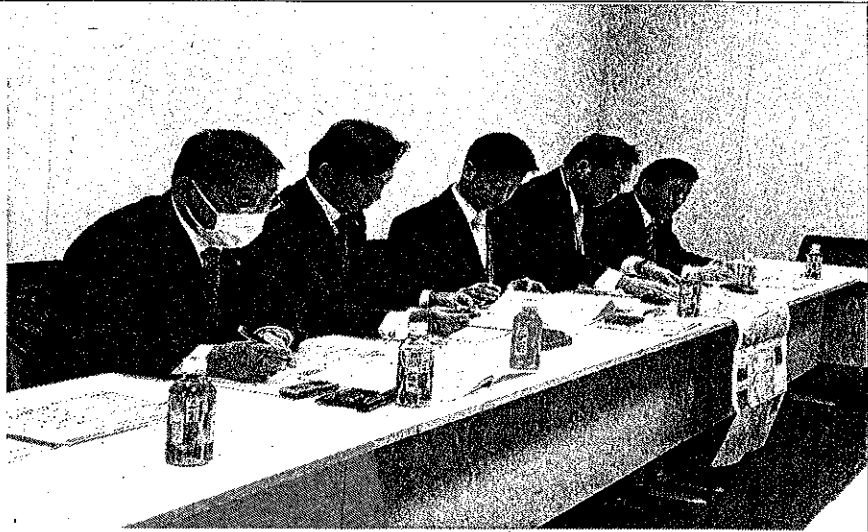
(6)全国一律の子ども医療費の無償化制度の創設

0歳から就学前までは、補助制度によって賄っているが、就学後から18歳までの医療費について補助制度がないことから、健やかな成長を保障するため、自己負担なく全国一律の子ども医療制度の創設と予算措置を要望

3. 令和佐原球場については、自動車メーカー工場跡地を寄付により用地取得を行い、先行取得した土地と併せて整備を実施し、延べ4haを開発した。

球場及びサッカー場と公園を一体化し、球場・サッカー場を広く一般市民が利用できるよう使用料も抑えた金額で運営をしている。

また、公園や球場については、雨水調整池も考慮して暗渠排水を施している。



参考写真

